

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・例年4月は気温の影響が大きく、売上が安定しない時期だが、今年は春物のトレンドがはっきりとしているため、客の反応が良い。また気温が低ければ低いほど、春物のコートなど単価の高いものを求める客がいることから、売上は良い方向に進んでいる。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・例年に比べて、5月の母の日やゴールデンウィークのトラベルグッズ等の販売量が多い。直前ではなく、少し前に買うという余裕を持った買い方が非常に目立つ。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・4月は平年を下回る寒い日が続いたため、主力アイテムであるジャケットが伸び悩んだ。その一方で、絶対額こそ小さいものの、婦人コートの売上が大幅に増加するなど、前年を上回るアイテムも複数出てきている。客のファッションに費やす支出はわずかではあるが増加傾向にある。またスーパーブランドなど高額品は恒常的に前年並みの売上を確保している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・北海道全店での売上は前年比で3.6%の増加となっており、前月との比較でも2.1%の増加となっている。部門別では、衣料品が前年比112.6%、住居用品が前年比110.6%、食品が前年比102.4%、専門店が前年比97.0%となっており、専門店を除き順調に推移している。衣料品では紳士衣料、婦人衣料、服飾雑貨が、住居用品では家電、日用雑貨が、食品では畜産、水産が好調に推移している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・創業祭がらみの大きな売出しと入学需要に支えられ、販売量は3か月前と比較して128%の伸びとなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前の時期だが、ランチが好調であり、先月に引き続き売上が前年を大きく上回った。滞在型の観光客が何度か来店し、顔見知りとなることもあった。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・例年4月はオフシーズンの中でも最低の月だが、今年は本州からの団体旅行がまずまずで、道内の個人客もそれなりに入ってきている。ここ数年にはなかった地元客の動きもみえてきている。ただ、宿泊費やその他の消費の伸びは今一つである。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・大手企業のセミナーや大手企業が営業成績の優秀な代理店等を招待する褒賞旅行など、本州方面からの団体の宿泊が増えてきた。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来店客が増えている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・通信を利用したいいろいろなアイデアが欲しいという客からの要望が、以前にも増して多くなっている。
		観光名所（役員）	来客数の動き	・ロープウェイ輸送人員が前年を上回って推移している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店頻度が高くなってきており、その結果、半年単位でみた客1人当たりの単価が平均5%程度上昇している。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・遅い春とともにようやく物件が動き出している。ただし、順調に忙しいところと全く仕事が無いところにはっきり分かれている。今までのように業界全体が良い、悪いという傾向はない。
		変わらない	変わらない	商店街（代表者）
商店街（代表者）	単価の動き			・商店街の化粧品店では客が低単価商品を支持する傾向が強く、単価上昇は期待できない。
商店街（代表者）	お客様の様子			・少しずつ暖かくなってきて季節商品に動きが出ている。しかし全般的に客の様子はまだまだ慎重である。

	商店街（代表者）	単価の動き	・転勤や入学等で年度初めはお金が掛かる月だが、買物に対する客の様子はかたくななままである。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・気温が不安定であるため、客足の良い時と悪い時の差が非常に大きくなっている。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・上旬はかなり寒い日が続ぎ、雪も3度ほど降っており、その影響で春物の動きが厳しかった。
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・気温の低い日が続いており、春物商材や行楽商材の動きが鈍い。生鮮食品、加工食品ともに価格低下が続いており、既存店の売上がなかなか上がらない。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・特売品の販売数の増加により、消費者が安い商品のみを購入する傾向が強くなっている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今年の4月は大変寒く、天候に恵まれなかったことで、来客数がとても悪かった。
	家電量販店（店員）	単価の動き	・前年と比べて買上客数が減っているが、平均単価が上昇している。
	家電量販店（地区統括部長）	単価の動き	・6月から始まる地上デジタル放送の前倒し需要が4月から急上昇すると予想していたが、思ったほど売上が伸びていない。
	その他専門店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・大型スーパーが軒並み開店しており、買上客数の確保がますます厳しくなっている。
	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・3月の景気回復傾向もつかの間で、今月はまた前年並みに戻ってしまった。ランチは天候不順の影響でビジネスマンの外出が減り、前年並みであった。ディナーは大型連休前であるため、前年売上の83%と激減しており、特に個人の来客数が前年比53%と大きく減少した。個室は学校関係者の利用が堅調で前年を上回った。観光客は全体で前年をやや下回っているが、特に道内客が減少しており、実感として前年から3~4割減少していると感じている。
	一般レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・先月に引き続きランチタイムの来客数が落ち込んでいるが、ディナータイムの来客数が増えており、トータルの売上は前年並みであった。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・4月に入ってから景気が上向きになることもなく、来客数が増えることもなかった。旭川は観光が良くなっているが、この時期はまだ厳しい。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊客数は前年と比べて数パーセントの減少となっているが、戦略的な要素も多少影響していることから、やや弱含みでの推移という感じである。
	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊人数、総消費単価とも前年並みで推移している。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの受注が前年の80%と低調である。旅行会社を利用しないレジャーや客の直接手配が増えている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・景気回復の兆しを報じられているが、タクシー利用客の増加にはつながっていない。
	その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・地元球団の客員動員数が平日で13,000~14,000人と安定してきている。
	設計事務所（職員）	それ以外	・大手建設業界の不祥事に基づく営業停止や指名停止が続出している。また独占禁止法改正の影響で低価格での受注も多くなり、下請を含めた建設関係者の景気低迷に拍車がかかっている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・建築面で少額物件の動きは上昇傾向にあるようだが、住宅販売については相変わらず低迷が続いている。
やや悪くなっている	一般小売店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・今月は天候不順で非常に寒い日が続いたこともあり、飲食店への客の入り込みが良くなく、当店の売上にも悪い影響を与えている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・今までになく買上客数が落ち込んでいる。自社、競合各社ともチラシの回数が以前にも増して強化されており、流動客の分散が見受けられる。また気温も上がり春物、初夏物の動きが活発化してこない。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価も低下傾向にあるが、買上客数の減少による影響が大きくなってきている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・低温による農業の遅れや、ガソリンの高騰で消費が低迷している。特に週末の売上が悪く、パンや飲料水など、春に販売数が増加する商品の動きが悪い。

	家電量販店（経営者）	お客様の様子	・客の買い控え傾向が強く、業種に関係なく前年の売上を下回っているところが多い。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・台替えが進まず、高額な修理をするようになった人が多くなった。公務員の給料の削減が響いている。	
	スナック（経営者）	単価の動き	・飲み放題の客が多く、客一人当たりの売上単価が下がってきている。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの日並びの影響もあるが、4月の道内旅行件数、旅行人員はともに前年比70%台で大不振である。5月はその分をカバーしているが、6月の申込状況も悪い。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・今年は天候不順の影響もあり、昨年に比べて利用客が大きく減少している。また4月は年度始めの入社・入学シーズンでもあり、歓迎会などが行われる時期でもあるが、最近はそのような機会が減っているせい、夜のタクシー利用が極端に減少している。	
	悪くなっている	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・買上客数は前年並みであるが、ビールなどの売行きが悪い。例年よりも気温が低いため、農作業も遅れており、ケース入りの缶コーヒーなど、農作業向けの飲料水の需要も低迷している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	出版・印刷・関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大手企業が求人情報誌を毎週発行することになり、その波及で商売の機会が増えてきている。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・道外向けの建築物件や鉄骨・コンクリート製品等の建築物件は相変わらず堅調に推移しており、道内のマンション等も札幌を中心に数量を伸ばしてきた。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・多少の季節要因もあるが、商品の在庫の回転が速く、サービス業においては好調との話を聞く機会が増えた。
		その他非製造業【機械卸売】（従業員）	取引先の様子	・一部の金属製品製造業を除き前四半期の停滞感は薄れ、06年度上期も05年度上期並みの仕事量を確保できる見通しである。しかし、良くなっているとはいえ、北海道全体が好況に転じているほどの受注があるわけではない。
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	それ以外	・原油価格高騰の影響で燃料の値上げが2度もあり、食料品や日用品、生産資材等多方面にわたり、値上がりが生じている。また天候不順や雪解けの遅れから、一次生産者の景況感が悪くなっている。反面、本州資本による不動産取得やホテル等の建設に動きがみられ、地域格差が拡大している。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・当初、4月から取引先の出荷数量が増加する予定となっていたが、需要の低迷から計画出荷数量の見直しがあり、当地からの出荷増分が本州工場に振り分けられることになり、スタートからつまずいた。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は大手製造業の工場建設が呼び水となって、地場企業にも能力増強投資などが目に付くようになった。個人消費は消費者の節約志向が強いほか、天候不順なども影響して、弱めの動きが続いている。住宅投資は分譲マンション建設の着工が一巡しており、耐震偽装問題の影響で売行きも伸び悩んでいる。公共投資は減少傾向にあり建設業界は厳しい。
		司法書士	取引先の様子	・不動産の売買取引、個人住宅物件の新築が依然として低水準で推移している。
		その他サービス業【建設機械リース】（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・少ないパイの中での競争激化が相変わらず続いている。
		その他サービス業【建設機械リース】（支店長）	取引先の様子	・保有物件の稼働が見込まれないため、月々の支払が重荷となり、総合リース契約中の物件を解約して転売を図った例が数件ある。
	やや悪くなっている	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・農業政策が変化している影響から、製造している農業機械製品の動きがあまり芳しくない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・燃料高騰の影響から、輸送関係は経営が相当ひっ迫している。原油価格が70ドルを超える状況続くようであれば、会社の存続にまでかわる。

	悪く なっている	-	-	-
雇用 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	人材派遣会社 (社員)	雇用形態の様子	・少しずつではあるが、正社員の中途採用のニーズが高まっている。特に営業マンの求人が目立つ。人材派遣では、一般職の派遣ニーズに加えて、売上、利益につながる販売職のニーズが依然として高い。新入学、就職の時期であることから、カード会社の新規加入促進業務への派遣ニーズも高い。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・4月に入ってから、居酒屋などの飲食店、ファッション系の小売店の求人が増加した。これらの業種を始め、コンビニ、その他でも求人広告の連続掲載の傾向が強まってきている。多くの業種でパート・アルバイトの求人難傾向が高まっている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人数が、一般商店や飲食店でもようやく増加してきた。建設業に動きが出るとともに、運輸・物流関係も増加している。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は増加しており、月間有効求職者数は微減で推移している。月間有効求人倍率は0.53倍となり、前年を0.07ポイント上回った。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求職者数が20%ほど減少し、新規求人数が80%ほど増加している。
		学校[大学] (就職担当)	採用者数の動き	・平成17年度の学生は複数の企業から内定を獲得していたが、企業と学生とのミスマッチから、内定辞退した学生が多かった。一方で、企業は二次募集、年間採用などとして採用枠を追加で増加させ、3月まで採用活動を行っている。今年度も4月に入り、既に内定がどんどん出ており、学生にとっては売手市場となっている。
変わらない		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人、求職者ともに動きはあるが、時期的なものであり、全体としては変わらない。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・十勝管外の求人件数を除いた地域みの求人広告件数は横ばい傾向にある。春の本格的農作業の開始と合わせた求人増への期待感はあるが、未知数である。
		新聞社[求人広 告](担当者)	周辺企業の様子	・大手電器メーカーの子会社において部品製造工場の増設が決まり、数少ない朗報となったが、依然として土建業の廃業や統合が相次いでいる。中心部の空洞化対策もいろいろな案が出ているが極めて難しい課題である。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は前年に比べて10.2%減少したが、新規求職者も7.8%減少しており、有効求人倍率は0.55倍と前年を0.02ポイント上回った。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数が前年比で減少しており、有効求人倍率が0.4倍台となった。
	やや悪く なっている			
	悪く なっている	-	-	-